

黒点観測家三沢勝衛

山本一清

山本先生

拝啓（中略）過般は私の眼病の件新聞に出で候処、格別の御心配をおかけ申候由、古畑（正秋）君より
拝承、何とも恐縮の外御座無く候。実は早速委細申上度く存居候処、つい今日にいたり、御申訳御座
無く候。眼は、過般上京、須田博士の御診察を願候処、白内障との事に御座候。（中略）

只今の処では、只明暗だけしかわかり申さず候。さて、かく相成り候ては、残った右眼を極力大切に
いたし度く、就いては過去十四年来の太陽観測をここに断念いたし度く決心仕候次第に御座候。過般
先生の日本学術協会に御発表相成り候御論文を拝読いたし候ても、「せめて自分の生命のある限りは」と
も存候へ共、チウリヒとの比較には今迄のものにて或は幾分は御役に立つ事と存じ、それに昨今多数の
観測者も続出の状況に候間、この三十一日にて御許しを願ひたく存居候。しかし先生の御研究の御都
合も伺はず、性急の事をいたす様にて、洵に恐縮に存居候。尤も、自分としても、今ここに止める事は
如何にも名残り惜しくも候へ共、万一右眼の失明とも相成り候へば、恐ろしい不自由を感じ申べく候間、
残った一方の眼の為に断念いたし度く決心いたし候次第に御座候。

今後は、この六、七年来次第に没頭する様に相成り候地理学で御奉公申し度く存居候。然し、今日の

私の地理学の基礎を作ってくれ候ものは、何時も何時も申上候通り、天文学の力に御座候。この意味からは、今後地理学への進展も或る意味に於て、私に於ける限り、天文学の延長に御座候。何分、相変らず御高援御高教相仰ぎ申上度御願申上候。

眼の手術は私が八度と云う相当の近眼であり、従つて左眼を手術しても、右眼の調節困難の爲め、やがて右眼が又白内障となり、手術するまでは用をなさぬとの事に候間、只今の処見合せ居候。それでも万一をたのみ、手術以外の方法を、あれやこれやと試み居申候。御休神願い上げ奉り候。

末筆乍ら奥様によろしく御願い申し上げ候。右御詫び旁々近況申上候。

敬具

一九三四年十二月二十三日

三 沢 勝 衛

三沢氏は我が国における太陽黒点観測の開拓者であつて、また今日といえども最も熟練、かつ忠実な観測者である。この人を、今、病氣のためとはいえ、学界から失うことは誠に例えようもなく、遺憾である。過去十数四カ年の間、寒暑も晴曇も超越して、専心に黒点の陰翳を見守つた功績は、偉大といわねばならない。氏の観測に刺激されて、最近には国内に四、五十名の新観測者が現われてきたが、そのうちのはたして幾パーセントが三沢氏の如き忍耐と熱心とをもって、信賴に値する学的成果をあげ得るだろうか深き感慨無きを得ない。三沢氏が太陽黒点の観測を始められたのは大正十年（一九二一年）であつた。その年の春の頃から上諏訪中学校の七三糶望遠鏡によつて氏は黒点観測の練習を始められ、かなり長く仕事になれた後、同年十月から、毎月報告を、極めて几帳面に京都へよこされるようになった。それから十有五年、一九三四年の末日にいたるまで、この貴重な観測記録は、「ブレテン」か、また「天界〔東亜天文学会誌〕」に載せられて、太陽や地球

物理関係のあらゆる研究者を喜ばせたのであった。これがなければ、遠くスイスのチューリッヒ大学から送られる報告を、年にわずか三、四度、それも郵信のためさらに遅れて入手する仕末、これでは、とても毎日毎時の変動常なき宇宙現象の臨機の研究資料に不十分なのであったから、三沢氏の真に「生きた」材料は貴いものだった。——今後、吾々はこの標準値を失って、淋しみを感じること実にはなほだしい。西村真琴博士その他の有志家たちが何とかしてこの偉業の後継者と後援者を獲んものと、今奔走しておられる。成功の日の速からんことを祈る。

- 『四十八人の天文学家』（一九五九年六月号、恒星社厚生閣）所収。
- 収録にあたり旧字は新字に、旧かなは新かなに改めたが、一部の漢字は旧漢字のままにした。
- 読みやすさのために、適宜振り仮名をつけた。
- カタカナ書きの人名・地名については、通行の表記にあらためた。
- 「」は編者の註である。
- PDF化にはL^AT_EX_{2 ϵ} でタイプセッティングを行い、dvipdfmxを使用した。

科学の古典文献の電子図書館「科学図書館」

<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/munehiro/sciencelib.html>

「科学図書館」に新しく収録した文献の案内、その他「科学図書館」に関する意見などは、
「科学図書館掲示板」

<http://6325.teacup.com/munehiroumeda/bbs>

を御覧いただくか、書き込みください。